「神に育てられて成長してゆく」　　2019 年 03 月 13 日

コロサイの信徒への手紙 2 章 16 節～23 節　だから、あなたがたは食べ物や飲み物のこと、また、祭りや新月や安息日のことでだれにも批評されてはなりません。これらは、やがて来るものの影にすぎず、実体はキリストにあります。偽りの謙遜と天使礼拝にふける者から、不利な判断を下されてはなりません。こういう人々は、幻で見たことを頼りとし、肉の思いによって根拠もなく思い上がっているだけで、頭であるキリストにしっかりと付いていないのです。この頭の働きにより、体全体は、節と節、筋と筋とによって支えられ、結び合わされ、神に育てられて成長してゆくのです。

あなたがたは、キリストと共に死んで、世を支配する諸霊とは何の関係もないのなら、なぜ、まだ世に属しているかのように生き、「手をつけるな。味わうな。触れるな」などという戒律に縛られているのですか。これらはみな、使えば無くなってしまうもの、人の規則や教えによるものです。これらは、独り善がりの礼拝、偽りの謙遜、体の苦行を伴っていて、知恵のあることのように見えますが、実は何の価値もなく、肉の欲望を満足させるだけなのです。

上記の言葉に、当時の諸宗教の教え、主張が現わされているが、いかに地上のものにこだわり、人間の欲に絡んだものであるかが分かる。それに対して、キリストの福音がいかに自由を約束している救いであるかが明確に述べられている。

まず、「だから、あなたがたは食べ物や飲み物のこと、また、祭りや新月や安息日のことでだれにも批評されてはなりません。これらは、やがて来るものの影にすぎず、実体はキリストにあります」と言う。救いに関して、食べ物や飲み物を禁止としたり、推奨したりする宗教があり、また、祭りや新月や安息日などの暦で、人間の運命を左右すると教える宗教があった。これらは力のない影のようなもので、実態はキリストにあると言う。キリストには神の愛が啓示され、この愛こそが人間を自由へと解放するのである。

次に、「偽りの謙遜と天使礼拝にふける者から、不利な判断を下されてはなりません。こういう人々は、幻で見たことを頼りとし、肉の思いによって根拠もなく思い上がっているだけで、頭であるキリストにしっかりと付いていないのです」と言う。天使礼拝とは天使を礼拝するという意味ではなく、ギリシアの神々の創造の秩序と調和を司るという天使たちを羨望する教説である。魂の安定と浄化を求める思弁的知恵を求める人々の心を癒し、惹きつけていた。しかし「著者」は、それらは幻で見たことを説き、肉の欲を満たそうと思い上がっているだけで、教会の頭であるキリストと結びついている確かさはないと忠告する。頭であるキリストの働きにより、体全体は、節と節、筋と筋とによって支えられ、結び合わされ、愛を生きる者として、神に育てられて成長してゆくのである。

「あなたがたは、キリストと共に死んで、世を支配する諸霊とは何の関係もないのなら、なぜ、まだ世に属しているかのように生き、『手をつけるな。味わうな。触れるな』などという戒律に縛られているのですか。」使えば無くなってしまうもの、人の規則や教えによるものは独り善がりの礼拝、偽りの謙遜、体の苦行を伴っていて、知恵のあることのように見えるが、実は何の価値もなく、彼ら宗教集団の栄誉と欲望を満足させるだけのものである。「著者」は、キリストに表された実態、愛を信じることが、この世の何ものに囚われない自由を約束し、そこに真の救いがあると説いている。